日本青年団新聞

Youth Post

第69回滋賀県青年大会　生活文化展

第72回愛知県青年大会　剣道競技

コロナ禍に青年大会へ挑んだ青年団の足跡

p2　ブルートレインに希望をのせて
（熊本県・球磨郡青年団協議会）

p3　形を変えて続いていく
（宮城県・宮城県青年団連絡協議会）

夏詣と私たちの試み
（香川県・小豆島町青年団）

p4, 5　現地に集い・学ぶ
（北海道・北海道青年団体協議会）

p6　「面白い」が、未来を切り拓く
（七戸　龍　氏 / 柔道家・九州電力株式会社所属）

p7　普段はできないことも青年団ならできる
（岡山県・岡山県青年団協議会）

p8　迷いながら踏み出す一歩が道となる

諦めない気持ちで、踊り、奏でる
（愛知県・小垣江青年団）

はらぺこ青年団
（滋賀県・滋賀県青年団体連合会）

第70回鹿児島県青年大会　意見発表

全国青年大会当日の様子は右記のQRコードを読み取り、ご覧ください。

編集・発行
日本青年団協議会
〒160-0013
東京都新宿区霞ヶ丘町4-1日本青年館5階
TEL 03-6452-9025　FAX 03-6452-9026
MAIL dan_news@dan.or.jp
WEB https://www.dan.or.jp

2021 vol. 5
106巻第5号　発行2021年11月1日

ブルートレインに希望をのせて

～次回こそ東京でプレーしたい～（熊本県球磨郡）

9月7日に日本青年団協議会、一般財団法人日本青年館、東京都の主催三者は、第69回全国青年大会（全青大）の一部種目の中止を決めた。今年は体育9種目、芸能文化8種目の開催を予定していたが、コロナ禍により体育全種目と芸能文化の1種目が中止、その他の種目はオンラインでの開催だ。昨年7月豪雨で被害を受けた地域の復興支援を行いながらも東京での決戦に向け備えていた体育種目の選手たちは、全青大出場をあきらめざるを得なくなった。

今回、一昨年に発足したばかりで今年軟式野球に派遣予定だった**球磨郡青年団協議会**野球部に、東京に行くんだ、という気持ちとともに乗り込んだブルートレイン※内でお話を伺った。実は、軟式野球連盟に所属していない選手が参加できる全国規模の大会はほとんどない。したがって団員と大会に出場するためには全青大が希望の光だったが、コロナが選手たちの前に大きく立ちはだかる。大勢で練習することが憚られ、本当に集まって野球をしても良いのか自問自答を繰り返した。しかし、練習が終われば「やっぱり楽しい。みんなと試合をしたい」とやる気があふれてくる。日に日に増える感染者数を考えると、全青大が開催できるのか不安な気持ちと、開催してほしいという期待が半々だった。そうして受け取った中止連絡。しかし、落胆すると同時に来年こそ出場しようとすぐに切り替えることができたと、野球部発起人の上村総一郎（うえむらそういちろう）さん（31）は爽快な笑顔で話す。その言葉に続いて、代表の愛甲祐輔（あいこうゆうすけ）さん（29）は「挫けてなんかいられない。やりたい気持ちを疎かにしてしまうと、本当にできるときにつながらない」と真剣な眼差しで語る。一方、取材当時、部員に中止連絡をできていないと気まずい気持ちを口にするお二人。部員には対面で伝えたいが、まん延防止等重点措置に伴い集まることは難しいとのことだった。熊本県青年団協議会会長の尾方希望（おがたのぞみ）さん（32）は、「本当に全国に行ってほしかったが仕方ない。本人たちも前向きなので、来年に向けて頑張ってほしい」と期待を寄せる。

彼らのような青年が全国各地にいる限り、全青大は青年たちを迎え続ける。

「ブルートレインたらぎ」で取材
（左：愛甲さん、右：上村さん）

※2009年まで東京―九州間を走っていた寝台特急車両を改装した簡易宿泊施設となっており、Wi-Fi環境も完備されている。

お問合せ：熊本県青年団協議会 Facebook ページからお問い合わせください

試合中も楽しそうに撮影する部員たち

初出場の第 68 回全青大でベスト 8 進出
熊本県代表としての最高記録を打ち出した

▸ユースポスト 106 巻④号に、下記の誤りがございました。謹んでお詫び申し上げ、ここに訂正いたします。
表紙　目次
誤）吉永麻実氏（耕人社）
正）吉永麻実氏（耕人舎）

形を変えて続いていく

～青年文化祭をオンラインで開催～

（宮城県仙台市）

コロナ禍という未曽有の逆境におかれても、新たな手法を編み出して活動を続けるのが青年団だ。7月18日、**宮城県青年団連絡協議会**は第69回宮城県青年文化祭を開催した。

実行委員を含む青年たちの生活はコロナ禍で一変したが、それでも地域で活動を続ける姿を沢山の人に見てもらいたいという一心で実現にこぎつけた。感染症対策のため、昨年度に引き続きオンラインで開催。ネット環境さえあれば誰でもアクセスができる利点をいかし、YouTubeでの配信を決めた。文化祭には合唱や舞台発表、写真展、団体の活動紹介など多彩な15作品が集まった。1日のみの公開ながら191回の再生を記録し、実行委員は驚くとともに喜びを隠せない。しかし、太鼓の響きや演劇の息遣いなど、画面越しでは物足りないことを感じたのも事実だ。来年はコロナ禍の収束を念頭に、対面での開催をめざす。実行委員長の伊藤輝（あきら）さん（30）は開会の挨拶で「青年団は日本各地で活動している。地域活動に興味のある方はぜひ一緒に地域を盛り上げよう」と力強く語った。

オンラインで県青年文化祭を成し遂げ、逆境でも活動を続けられるという実感を得た宮城の青年たちの顔は自信に満ちていた。

むすび丸が地元を紹介

※むすび丸…おむすびと伊達政宗公の兜をモチーフにした仙台・宮城のPRキャラ

お問合せ：宮城県青年団連絡協議会　TEL：022-792-0650　　●伊藤義幸支局員（宮城県青年団連絡協議会）より投稿

夏詣（なつもうで）と私たちの試み

～新たな夏の習慣～

（香川県小豆島町（しょうどしまちょう））

夏詣とは2014年から、東京都台東区の浅草神社で始まった新たな夏の習慣だ。年の半分を節目として神社・仏閣に赴き、残りの月日の平穏を願う。

今年、**小豆島町青年団**（以下、青年団）は「小豆島版夏詣」の企画を行った。島の7つの神社で夏詣公式の提灯（ちょうちん）やのぼりを境内にかかげ、御朱印を用意し、島の内外から参拝者を迎えた。青年団では、御朱印に使用するキャラクター「夏詣のなっちゃん」の考案や、盆※をどりの動画作成を行った。コロナ禍でも島の取り組みを全国にPRするため、動画をYouTubeで公開し、リモートにて浅草神社で盆をどりを奉納した。動画には夏詣期間中に神社に飾られている茅（ち）の輪（左下写真）が登場するのだが、こちらの製作には青年団も携わった。来年からは自分たちが主軸となって茅の輪の製作をし、伝統の継承をめざしている。

「島に戻りたい、移住したいと思ってくれる人のため、地元で活躍する私たちは笑顔で集える場所をつくり、神社や地域の風習を守っていく事が、帰れる故郷づくりの一つ」と団長の石井寿弥（かずや）さん（26）は語る。そんな想いを込めて、小豆島版夏詣音頭の歌詞ではこう綴った。『帰れる故郷（ふるさと）残したい』と。

※盆をどり…盆踊りの別表記。夏詣ではこちらを用いた

製作に携わった茅の輪
盆をどりの動画にも登場する

お問合せ：香川県連合青年会　TEL：087-874-0713　　●石井寿弥支局員（香川県連合青年会）より投稿

▶ユースポスト106巻④号に、下記の誤りがございました。謹んでお詫び申し上げ、ここに訂正いたします。
表紙
誤）106巻③
正）106巻④

16 平和と公正をすべての人に

青年団とSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

昨今、持続可能な社会をめざすための17項目のターゲット（ＳＤＧｓ）を実践することが社会的に注視されています。しかし、ＳＤＧｓとして注視される以前から、青年団はＳＤＧｓに通じる活動を続けてきました。本紙では、青年団とＳＤＧｓについて各号のテーマに沿ってご紹介します。

日本青年団協議会（日青協）は、領土問題を一地域の問題として留めるのではなく、元島民や地元の青年たちが故郷に帰れるその日まで、領土返還に向けて様々な取り組みを行ってきました。今回は領土問題をテーマに、日青協の運動について取り上げます。

17 パートナーシップで目標を達成しよう

日ロ間で交渉がすすむ北方領土問題は、武力ではなく平和的な解決を求めてまいりました。対話による早期復帰をめざし、地域青年の悲願を達成していくため、地域青年が一丸となって返還運動に取り組んでいます。

～現地に集い・学ぶ～

◆領土返還に向けた取り組み

日青協では各地の青年の声に耳を傾け、その課題の一つとして領土問題にも真剣に取り組んできました。

島根県・竹島は１９０５年に日本の領土に編入され、隠岐島（おきのしま）の人たちの豊かな漁場でした。しかし１９５２年に韓国側が「李承晩ライン」を一方的に宣言し、漁民を追い出したのです。しかし領土を放棄することも定められたサンフランシスコ講和条約には竹島の記載はなく、国際的には現在も竹島は日本の領土です。日青協は、鳥取県や島根県の青年団と共にこの問題と向き合ってきました。

１９７０年代、周辺で石油埋蔵の可能性が指摘された**沖縄県・尖閣諸島**（せんかく）では、中国が根拠なく自分の領土だと主張し、軍艦だけでなく漁船等で領海侵犯を繰り返しています。しかし元をただせば、どこの国の領土でもないことを明治政府が確認したうえで、琉球国（現在の沖縄県）の一部とした経緯があります。

戦後**沖縄県**がアメリカに統治されて以降、日青協は沖縄青年の悲願だった日本復帰にも力を入れてきました。日青協の結成当初から１９７２年の沖縄返還まで、核撤去や基地縮小の要求など様々な運動を全国で展開してきました。

北海道・北方領土は、北海道の青年の声にこたえ、婦人会の全国組織である全国地域婦人団体連絡協議会（全地婦連）と共に復帰のための全国署名を１９７０年に呼び掛けました。さらには同じ年に、根室市で返還要求の集会を全地婦連と力を合わせて開催しています。「母と子」の関係にたとえられる婦人会と青年団が、地元の生活現場から北方領土の復帰を求める運動の原点がここにあります。その３年後、１９７３年には集会名を「北方領土復帰促進婦人・青年交流集会」と改め、悔しくも52年経過した現在でも返還の実現のため開催し続けています。

今なお未解決の領土問題。私たち日青協は竹島・尖閣諸島・北方領土が、疑いなく島根県や沖縄県、北海道の一部であり日本の領土だ、と声を上げる青年たちと足並みを揃え、これからも問題解決や返還実現に向けて取り組みます。

沖縄返還を求めて、青年団の代表が全国から沖縄に集結、那覇港から上陸した。沖縄青年の苦しみは自分たちの苦しみだと、「小指の痛さは全身の痛み」だとして
（1967年２月　那覇港にて）

北方領土の早期返還をめざして

「四島（しま）の未来　心かよわせ　返還へ」

2月7日は北方領土の日です

北方領土返還要求のシンボルマークです

独立行政法人 北方領土問題対策協会

〒110-0014 東京都台東区北上野1-9-12住友不動産上野ビル9F

電話 03-3843-3630　FAX 03-3843-3631

URL http://www.hoppou.go.jp

◆北方領土クイズ

近くて遠い北方領土について、どれぐらい知っていますか。この機会に学習と復習をしましょう。問題は全部で7問。みなさんは何問わかりますか。

基礎編

◆問題1　北方領土と呼ばれる島は全部でいくつありますか。

①1つ　②4つ　③不明

◆問題2　北方領土問題とは何でしょうか。

①北の方にある領土の所有権が、どの国にあるかを決める問題

②漁業や採掘・調査などを自国の自由にできず、他の国に妨害されてしまう問題

③第二次世界大戦後、日本の領土にソ連軍（当時）が侵攻し法的根拠なく占領し続けている問題

◆問題3　北方領土の日は何月何日でしょうか。

①5月5日　②6月16日　③2月7日

応用編

◆問題4　北方領土が属している自治体は次のうちどれでしょうか。

①根室市　②羅臼町　③札幌市

◆問題5　根室市の納沙布（のさっぷ）岬「望郷の岬公園」内にある北方領土返還祈念シンボル像の名前は何でしょうか。

①虹の架け橋　②四島の架け橋　③ニホロ

青年団編

◆問題6　北方領土返還祈念「四島の架け橋」シンボル像の下で灯し続けられている火は、次のうちどれでしょうか。

①青年の火　②祈りの火　③返還の火

◆問題7　日青協会長が大会実行委員長をつとめ、内閣総理大臣らも列席して官民一体で返還に取り組む大会は、次のうちどれでしょうか。

①北方領土返還要求全国大会

②官民一体北方領土返還要求大会

③北方領土を返せ！全国大会

クイズの回答は、2022年2月の第52回北方領土復帰促進婦人・青年交流集会内で発表します。参加ご希望の方はお近くの道府県団まで。みんなで参加しよう！

青年団で考える領土問題

北海道青年団体協議会会長　阪　光平

北海道に住んでいる人は、道内で発行される地方紙「北海道新聞」を読んでいる人が多数派を占めています。私も毎朝欠かさず読んでいると、１週間に１～２回は北方領土に関する記事を目にします。北海道に住んでいると、日本の他の地域に比べ北方領土に関する事柄に触れることは多いと思われます。それでも私は最近まで、北方領土のうちの１島「択捉（えとろふ）島」の面積だけでも沖縄県より広いということを知りませんでした。

北海道に住んでいて、北方領土関係のニュースを見る機会が多くても、「北方領土の島の面積」という基本的なことはわざわざニュースで報道されませんし、ひょっとしたら僕が今まで受けてきた学校教育の中で学んでいるのかもしれませんが、それはあくまで「テストでいい点を取るための勉強」であって、領土問題について深く学び、国民の一人として北方領土の返還を願う人材の育成をめざした教育であれば、日常生活の話題にもっと自国の領土についてふれることがあったのではないでしょうか。（もちろん、単に私が忘れていただけという可能性もあるのですが）。

それでは、現在の日本に暮らす青年が、社会に出た後に改めて領土問題を学習し、返還を呼びかけていく活動に参加するといった機会は、どれだけあるでしょうか。学びの機会が少ない中、日本で暮らしている様々に方に、北方領土に関する理解を深める機会を提供しているこの取り組みは、本当に価値があるものと感じています。

私は日本の、そして北海道の青年として北方領土について学び、領土の返還を強く願い、声を上げ続けていきたいと思います。

プロフィール

さか・こうへい。北海道岩見沢市出身、江別市育ち。北海学園大学経済学部経済学科卒業後、長沼町役場に奉職。2013年４月長沼町青年団体協議会に加入、2015年から2019年まで同会事務局長をつとめる。南空知青年団体協議会会長を経て、2020年に北海道青年団体協議会会長に就任。38歳。

元島民と北方領土に想いを馳せる（2019年6月）

天然ガスがひらく未来

天然ガスは、クリーン性に優れた
環境負荷の少ないエネルギーです。

天然ガスはメタンを主成分とし、不純物を含まないクリーンなエネルギーです。大気汚染や酸性雨、地球温暖化の原因ともいわれる窒素酸化物（NOx）や二酸化炭素（CO_2）の排出量も少なく、環境保全に貢献する、地球にやさしいエネルギーです。

http://www.tokyo-gas.co.jp/

エネルギー・フロンティア TOKYO GAS

▸七戸　龍　氏

しちのへ・りゅう。沖縄県出身、32 歳。両親の影響で7歳から柔道をはじめ、福岡大学在学時には全日本学生選手権で優勝を果たす。九州電力（株）入社後も柔道グランドスラム・パリ2014での優勝を筆頭に、日本だけにとどまらず海外でも優秀な成績を残す。現在は日々柔道に励みながら、少年向けの合同リモート錬成（オンライン柔道教室）の講師などを務める。

▸日本青年団協議会会長　中園　謙二

1980 年生まれ。岡山県倉敷市在住。2008 年に岡山県青年団協議会に入会し、同会長、日本青年団協議会役員を経て2020 年より同会長。

リーダーと語る

「面白い」が、未来を切り拓く

社会の最前線で活躍する方と語り、あらゆる角度から地域を見つめる本企画。今回は、柔道界の第一線で活躍する七戸龍氏と対談する。日本だけにとどまらず海外でも優秀な成績を残し、営業マンの一面も持つ七戸氏にこれまでの経験から得られた考えについて迫る―。

◆周囲の声に支えられて

（中園）仕事をしながらの柔道生活について教えてください。

（七戸）大学を卒業し、実業団に所属する形で九州電力（株）に入社しました。日中は営業をし、仕事後、柔道の稽古に励んでいます。

（中園）青年団も仕事をしながら地域活動をしている人が多く、通じる部分があります。仕事と練習の両立は大変だと思いますが、モチベーション維持に欠かせないものは何ですか。

（七戸）確かに両立は大変ですが、職場の方の理解と応援が心強いです。工夫して効率よく練習することも大事ですね。

（中園）周りの支えがあるからこそ頑張れるんですね。それでも世界の舞台で成績を残すことは並々ならぬ努力の成果だと思います。

（七戸）応援してもらえるからこそ「勝ちたい」想いが募り、原動力になるので、試合でのプレッシャーを感じません。目標に向かって共に頑張る仲間の存在も大きいです。

◆柔道は人間道

（中園）出演されているＹｏｕＴｕｂｅで「柔道は高校から大学の時期に一番のびた」という発言がありました。

（七戸）高校進学のときに、沖縄県内で一番の強豪校からお誘いを受けたのですが、別の学校に行ってその強豪校を倒した方が面白いと思い断りました。そこから本気で柔道に取り組み、高校２年生のときに県大会で優勝しました。

（中園）まさに有言実行ですね。

（七戸）県では優勝したものの、全国大会は３位でした。上には上がいると、もっと強くなりたいと貪欲に思ったことを覚えています。仲間と一緒に汗を流したことも結果につながりました。

（中園）ひたむきに柔道に取り組まれ続けてきた中で、柔道に見出す価値や魅力は何ですか。

（七戸）柔道は武道として人間形成に通じる部分が大きいです。礼にはじまり礼に終わることもそうです。勝った時は誰しもガッツポーズをしたくなりますが、相手を気遣って我慢します。相手を尊重するところは魅力のひとつですね。

◆地域から風を

（中園）コロナ禍で全国青年大会も体育の部を中止しました。柔道界では新型コロナの影響はどうですか。

（七戸）大きな打撃を受けています。自分にできることはないかと、いまは全日本柔道連盟のアスリート委員会で選手の声を吸い上げて改革していく活動をしています。最近は子どもたちが柔道から離れないよう、オンラインの柔道教室をしました。

（中園）オンラインで柔道教室ですか。

（七戸）オンラインで技術を教えるのには限界があるので、技術というより対話を重視しています。

（中園）大事ですね。コロナ禍が収まるまで力をためる時でもあります。今後はどんな道に進もうとお考えですか。

（七戸）高校まで沖縄、大学生活は福岡で過ごした私自身、地方に拠点を置いて世界で成績を残すことを重視してきました。強い選手は東京に集まりやすいですが、その流れを変えたいです。

（中園）地域への熱い想いが伝わってきます。

（七戸）努力すればどこでも道は拓くことができます。めざす目標は、自分が面白いと思う方を選んでほしいです。私は、九州に残りながら世界で活躍する方が面白いと思ったことが今につながっています。目標を叶えるうえで苦しいことはあると思いますが「こうなったら面白い」という気持ちがあれば自ずと道がみえてくるはずです。

九電みらいエナジー
Kyuden Mirai Energy

私たちは、自然が持つ様々な力を
エネルギーとして活かすことで、
ずっと快適な社会の実現や
魅力ある地域づくりに貢献します。

詳しくは
WEBで

青年団って どんなところ？

vol. 2

普段はできないことも 青年団ならできる

岡山県青年団協議会（岡山県岡山市）
会長　花房（はなふさ）　功基（こうき）　氏

青年団には様々な業種、年齢、背景をもった青年がいる。本企画では、多様な立場の人に活動を通じて感じた自身の思いや考えを伺い、あらゆる角度から考える。第２回目となる今号では岡山県青年団協議会会長の花房功基さんに、これまでの経験や青年大会をとおして見た自分にとっての青年団像を伺った。

東京での時間は岡山代表の剣道選手たちと共に過ごす

冊子「エール」の取材は全ての団体が対面を希望した

◆食事で勧誘された青年団

２０１６年、当時20歳の私は岡山市の成人式で、後の県青年団協議会会長で当日ボランティアとして参加していた延江（のぶえ）典子さんに出会います。その場ではお別れしたものの、後日、岡山市北区建部（たけべ）町で活動する青年団たけべおこしプロジェクトの会議に出席したところ、延江さんと偶然再会しました。その場でＢＢＱへのお誘いを受け、楽しみにしつつ行ってみると、なんとそこは県青年団協議会の定期大会の場。定期大会とＢＢＱがセットの青年団への勧誘は今なお健在でした。これを機に青年団の事業に参加しないかとお誘いを受け、青年団に入ることに。その役員を経て今年から会長を務めています。

◆剣道予選会を経て

全国青年大会の剣道種目が（一財）全日本剣道連盟（当時）と共催になった２０１８年。私は当時の延江会長から、県剣道連盟との交渉や調整を任されました。言われたからにはやらないと、と思って取り組んだものの、当初はわざわざ予選会を開かなくても各地から持ち回りで派遣すればいいとの案も出ていました。しかし持ち回りでは面白くないし、自分たちが地元岡山の代表だと胸張って全国の舞台に出てもらおうと交渉し、予選会を開催することに。県剣連のみなさんには暖かく向き合っていただきながら、初めての試みで道を切り拓いたことで自分自身も鍛えられました。県剣連や選手のみなさんと、全国青年大会の時に東京で懇親会をしたことも良い思い出です。選手の方から、全国の壁は厚かったけれどまた来年（２０２０年）挑戦します、と言われたときには本当に嬉しかったです。

◆普段と違う体験を

こうした嬉しい体験があった後すぐにコロナ禍が。私たちが主催する県青年交流祭での関係をいかしてできることをしたい、と思い、つながりのある青年団体を紹介する冊子「エール」を、各団体に直接取材しながらつくりました。中には青年交流祭への出場打診をきっかけに関係ができた団体もあります。

私の仕事は製造業で建設機械の部品をつくっていますが、団体間の調整などは全て上司が対応するので、普段の生活では他団体との交渉や外部の方からの感謝などの経験がありません。そうした普段送っている生活の中でできないことができる場所、それが私にとっての青年団です。

毎月17日発売！
月刊 社会教育
創刊 1957 年。実践家と研究者による市民のための社会教育総合誌。公共施設や教育施設における社会教育はいまどうあるべきか。毎号幅広いテーマで社会教育の在り方を見つめます。
定価：本体 741 円＋税
旬報社　〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町 544 中川ビル４F
TEL03-5579-8973　FAX03-5579-8975　http://www.junposha.com/

日本青年館ホール
私たちは1921年以来、
一貫して日本の社会教育、
全国の青年団を応援しています。
お問合せ ： 株式会社ニッセイまで
「日本青年館ホール」で検索!

OPINION

迷いながら踏み出す一歩が道となる

新型コロナウイルス感染症が国内で確認されて一年以上が経過した。いつの間にかコロナ禍という言葉が日常的に用いられるようになったり、マスクをした生活が当たり前になったりと、社会はwithコロナに向けた変化に適応しつつある。社会のあり様が大きく変わる中、第６９回全国青年大会がいよいよ一年ぶりに開催する。

大会の開催にあたってはいくつものドラマが各地で生まれた。予選会の会場は市民以外の利用が規制される事態が起こったり、ワクチン接種の会場に急遽切り替わり使用ができなくなったりした。さらに、全国で爆発的に感染が広がり、仲間で集まることも困難な日々が続き、多くの青年団活動に歯止めをかけた。

しかし、それでも青年たちは諦めない。全国の青年団は、感染対策を徹底した中で予選会を開催したり、競技を全て身内だけで実施し、その内容を録画してYouTube配信したりするなど、様々な工夫を凝らした。他方、抗っても抗っても予選会ができなかった地域もある。予選会の実施有無に優劣はない。その地域の実情にあわせて、一人ひとりが歯を食いしばって活動したことが次の一歩につながると確信する。

今年の全国青年大会は社会情勢を鑑み、集合開催ではなくオンラインで全国をつないで競い合うこととした。観覧は無料で全ての種目を視聴することができる。ぜひ、ご観覧いただきたい。

IKEDAN イケ団 イケてる青年団員 No.47

諦めない気持ちで、踊り、奏でる

岡村 恭弥さん（29）（愛知県小垣江青年団）

伝統を絶やさず前向きに！

「高校を卒業したら青年団入ってよ」

きっかけは地域の盆踊りの手伝いをしていたときに、地元の先輩から声をかけられたことだ。昨年高校を卒業し、あの時の盆踊りの楽しさをもう一度味わいたいという思いから岡村恭弥さんは入団を決意した。しかし、昨年から流行しはじめたコロナにより、楽しみにしていた盆踊り大会も中止せざるを得ない状況となった。

入団2年目となる今年、盆踊り大会の担当に抜擢されたが、どんな準備があるかもイメージが湧かず不安な日々を過ごしてきた。そんな中でも伝統は絶やしてはいけないと、太鼓と踊りの練習だけは団員たちと続けた。今年も大会の開催は見送ることとなったが、団員たちと意見を出し合い消毒の徹底や検温、距離の確保やマスク着用、換気を条件とし活動に望めるよう準備をしてきたことは無駄ではなく、先輩たちから受け継いできた伝統をつなぐことができたと感じている。いつかみんなでできる盆踊り大会を楽しみに、活動に取り組んでいく岡村さんの声は明るい。

●大石あゆみ支局員（愛知県青年団協議会）より投稿

編集後記

住んでいる賃貸物件にて管理人さんから、とある深夜時間帯の騒音に苦情が寄せられているから改善せよ、との貼紙がなされました。しかし、その騒音被害に遭ったことも発生源でもない私は、建物内でのけ者にされた気分になっております。一度でいいからどれほどうるさいのか聞いてみたい、と無音の部屋で一人夜な夜な耳を澄ませる日々です。（き）

NISSEIKYO

最新の情報はこちら

https://www.facebook.com/nisseikyo01/

はらぺこ青年団

地元の名物を支局員青年団エピソードとあわせてご紹介。

滋賀県をメインに11店舗を構える“ごはん屋”。このストレートな名前のお弁当屋さんのから揚げ弁当が滋賀県青年団体連合会の事業に欠かせない。ほかほかのご飯に少しのお惣菜、そしてから揚げ。シンプルながらくせになる味とはこのこと。市や町の団員は「またこのお弁当か～」と言いつつも嬉しそうにモグモグほおばっている。馴染みの味で一息ついたら、「よしもうちょっと頑張ろう！」

コロナが落ち着いたらまたこうやってみんなで食べたいなぁ。

●村田康恵支局員（滋賀県青年団体連合会）より投稿